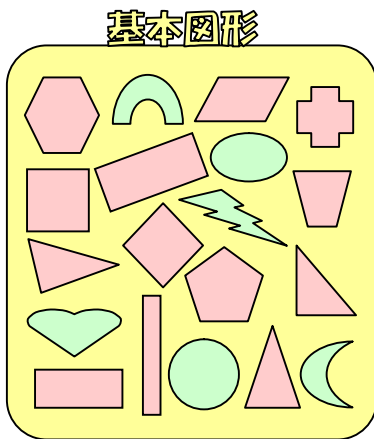


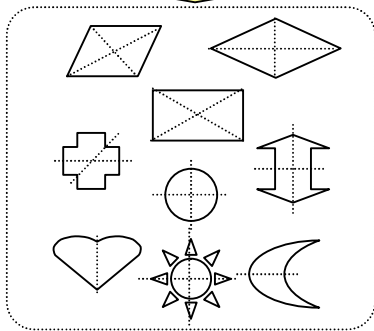
観点を手に入れるに伴って、親しみを感じる図形が増えていく。

雑多な図形の中には、美しく見えるものがある。量と測定領域で、長さや重さ等を数値化してくように、図形考察の観点を手に入れ、特徴から図形に名前を付けていく。児童には、以下に示したような、全体の姿や、流れをイメージさせる必要がある。



考察の観点

- 直角。
- 辺の数。
- 同じ長さの辺の数。
- 平行。
- 平行の組の数。
- 対角線の交わり方。
- 対角線の長さ。
- 対称の軸。
- 対称の中心。



図形考察の観点が増えていく。

目に見える「辺」を中心に分類。

目に見えない「線」を引くことで、特徴をとらえる。

新たに図形考察の観点を手に入れると、これまで捨てられていた図形にも、次々と名前が付けられていく。

美しく見える図形がある。→その理由はこれだ。→名前をつけたい。

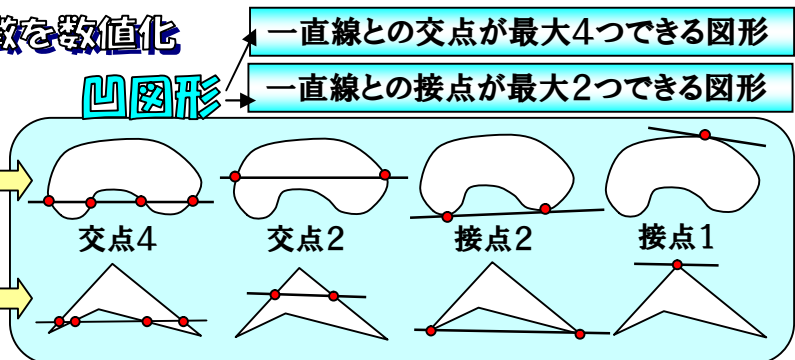
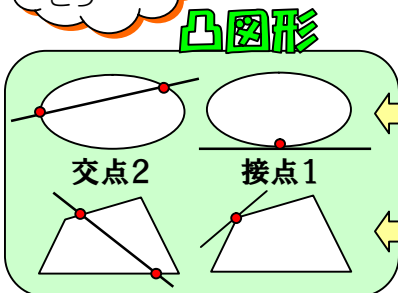


さらに発展!

- 一直線との交点・接点の数。

1本の補助線をどう...

図形の特徴を数値化



今後、次々と新たな図形考察観点を手に入れると...